

家庭学習の手引き

6年間保存版



館林市立第三小学校

家庭学習がなぜ

必要なのでしょうか？

1 家庭学習の意義

学校では、基本的には毎日宿題を出しています。それは、学校で学習したことを復習したり、これから学習することについて予習したりすることによって、一層の学力向上が図れること、そして、学習習慣を身につけられるようにするためです。けれども、宿題イコール家庭学習ではありません。各ご家庭では、宿題の他に、お子さんの興味や関心も考え、自主学習に取り組ませましょう。

「教えてもらう立場」から「学ぼうとする積極的な姿勢」を身につけることはこれからの成長に欠かせません。

家庭学習によって、つぎのような教育的効果が期待できます。保護者の皆様のご協力をお願いします。

① 学習習慣が身につく

・毎日の家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身につきます。

② 学習内容が定着する

・学校で学習したことを家庭で復習することにより、学習内容が定着するようになります。特に漢字や計算などは、毎日くり返し練習することでより定着し、学習に対する自信がもてるようになります。

③ がまん・根気・集中力がつく

・家庭学習の最大の敵は、テレビやゲームなどの誘惑です。これらの誘惑に負けず家庭学習をすることにより、がまんや根気・集中力を養うことができます。毎日一定の時間に集中して勉強することが大切です。

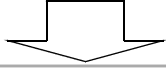
④ 家族ふれあいのきっかけになる

・「音読をしているとき、横で一緒に聞いてあげる」「勉強がわからないとき、アドバイスしてあげる」など、必要に応じて親が関わることにより、家族のふれあいの機会になります。それはまた、子どもの心の安定につながります。

2 家庭学習の方法

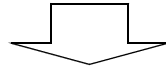
① 最初に、学校から出された「宿題」に取り組みましょう。

- ・学校では、基本的に毎日宿題を出します。



② 自主学習の課題に取り組みましょう。

- ・宿題の他に、自分なりの自主学習課題を決めておきましょう。
読書や日記などもよいでしょう。



③ 勉強が終わったら、次の日の準備をしましょう。

- ・鉛筆をけずり、持ち物を確認し、しっかり準備しておきましょう

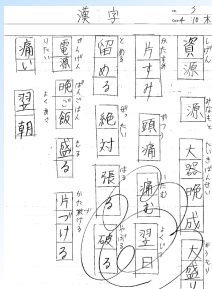
【自主学習の参考例】

※このほかにも、自分なりにアレンジした自主学習にすすんで取り組みましょう。

国語	算数	その他
<p>漢字練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字ドリル ・日記 ・読書、音読 ・テストのやり直し ・意味調べ、漢字調べ 	<p>計算練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算ドリル ・百マス計算 ・教科書の復習 ・テストのやり直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の観察 ・月や星の観察 ・地図で国や都市調べ ・ピアノ練習 ・リコーダー練習 ・家庭科の調理

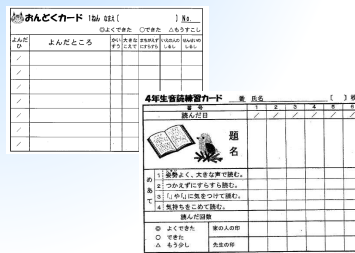
漢字練習

- ・漢字の構成や字形を意識して練習する。
- ・漢字を使った短文を作る。



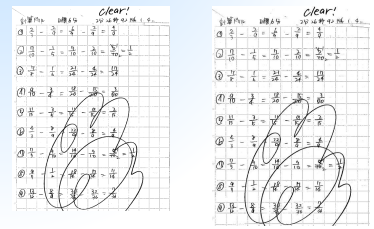
音読

- ・句読点に気をつけて文章を正確に読む。
- ・情景を思い浮かべながら感情を込めて読む。



計算練習

- ・計算練習をくり返して身につける。
- ・間違った問題はもう一度やり直す。



3 学習時間の目安と家族のかかわり

「10分×学年」を目安に取り組ませてください。その際、以下の3点に留意してください

- ① 毎日続ける
- ② 学習する時間を決める（夕飯の前に終わらせるなど）
- ③ 学習中はテレビを消す（集中できる環境を作る）

「家族のかかわり」について、発達段階別のポイントは次のようになります。

低学年

一緒に取り組み、やる気を引き出す！

- ・低学年は、家庭学習の基礎を培う段階です。お子さんと一緒に学習内容や、やり方を決めて、家庭学習の習慣をつけさせましょう。
- ・できたことをほめることで、さらにやる気を引き出します。

中学年

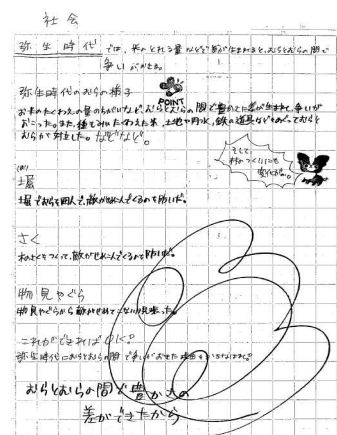
認めて、ほめて、自信をつける！

- ・中学年では、必要に応じて手助けすると、少しずつ自分でできるようになり、できた体験を重ねることで、自信をつけていきます。
- ・家族のアドバイスや励まし、賞賛で意欲が高まります。

高学年

見守って伸ばす！

- ・高学年では、より一層、自主的な学習が期待されます。家族から見守られているという安心感の中で、お子さんを伸ばしましょう。
- ・頑張りや成長を認めることにより、学習意欲が高まります。



「生涯学習」という言葉通り、人は生涯にわたって学び続けます。小学校の段階から、自己教育力を養っていきけるよう、家庭学習を推進していきましょう。